

Human Voice

【ヒューマン ヴォイス】

いのちのリレー

この春に、
こつずい移植を
することができました。



まつした ゆう き
松下裕輝くん



骨髄移植を受ける 松下裕輝くんのお便りと
大阪赤十字病院小児科副部長 朴永東先生の声

ぼくは、小学校2年生の時に急性リンパ性白血病になりました。
去年の秋に再発して、今もちりょうをしています。
ぼくの病気はこつずいに悪い細胞が増殖してしまう病気です。
その悪い細胞をこうがんざいでたおしていくと、ぼくは正常な
血液をなかなか作れなくなってしまうので輸血をしています。
お母さんに聞くと、「健康な人でも自分の血を400ccぬくと、
しんどいんだよ」と言っていました。ぼくはそんな人たちのおか
げでちりょうを続けることができているんだなと思いました。
けん血をしてくれるみんなに感謝しています。
この春に、こつずい移植をすることができました。それまでに
もたくさんの輸血をさせてもらうので、みんなに助けてもらい
ながらがんばろうと思います。

松下裕輝

当院における 小児血液腫瘍診療の 取り組み

2010年4月に小児血液腫瘍部門を立ち上げるべく、大阪赤十字病院に赴任いたしました。現在、当院小児科では血友病や血小板減少症などの血液疾患90例、白血病や悪性リンパ腫などの血液腫瘍性疾患61例、神経芽腫や脳腫瘍などの固形腫瘍18例の子どもたちの診療に従事しています。また、同種移植9例、自家移植9例、計18例の造血幹細胞移植も経験しています。

血液腫瘍の診療は輸血なしでは治療が不可能なことが少なくありません。また、疾患により献血由来の凝固因子やアルブミン、グロブリン製剤を必要とすることも多々あります。

献血をしてくださった方々の善意を胸に、今後とも血液腫瘍疾患の子どもたちを「一例一例大切に」見守っていきたいと思います。

大阪赤十字病院
小児科副部長(血液腫瘍担当)
朴 永東



コメントをいただいた
ぼく さいとう
朴 永東先生

DATA

2010年末における日本小児血液学会疾患登録症例

血液疾患	90例	固形腫瘍	18例
血小板減少性紫斑病	38例	神経芽腫	5例
血友病	29例	脳腫瘍	4例
再生不良性貧血	10例	軟部組織腫瘍	4例
溶血性貧血	10例	骨肉腫	1例
好中球減少症	2例	腎腫瘍	1例
カサバツハメリット症候群	1例	胚細胞腫	1例
血液腫瘍性疾患	61例	盲腸がん	1例
急性リンパ性白血病	32例	皮膚がん	1例
悪性リンパ腫	12例	造血幹細胞移植	18例
組織球症	10例	同種移植	9例
急性骨髄性白血病	6例	自家移植	9例
ホジキン病	1例		